

## 特集序言

# 「アンチエイジングの世界」の 企画と編集にあたって

山下裕司・竹内一成

(千葉科学大学・東京理科大学)

内閣府から公表されている「平成29年版高齢社会白書」によると、平成28年10月1日の時点で前期高齢者(65～74歳)の総人口に占める割合は13.9%、後期高齢者(75歳以上)は13.3%と報告されており、2050年には65歳以上の人口割合が約38%に達すると予想されています。2008年に始まった後期高齢者医療制度に見られるように、高齢者の健康保持(健康寿命の延長)が大きな課題となっており、アンチエイジング(抗老化)は慢性的な言葉になりつつも、高齢者の生活の質だけでなく社会の経済効率を考える上で今後なお一層重要なキーワードであることは間違いありません。アンチエイジングとは、加齢による身体の機能的な衰え(老化)を抑制・予防することであり、医学をはじめ、薬学、運動生理学、栄養学、美容、音楽、芸術など多岐に渡る分野でアンチエイジングに関する取り組みが行われています。昨今では、日常で実践的なアンチエイジングの対処法がしばしば目にされますが、老化現象には未だ解明されていないメカニズムが多く含まれています。そこで本稿では、学術的観点から「アンチエイジング」についてご執筆を頂きました。

早稲田大学の王梓先生、大畑佳久先生、千葉卓哉先生には、老化制御シグナル伝達系とその制御物質を概説して頂き、さらに身近な食品に含まれる抗老化物質を紹介して頂きました。東京理科大学の小林正樹先生、星野駿介先生、樋上賀一先生からは、カロリー制限による抗老化・寿命延伸作用のメカニズムについて遺伝子改変動物を用いた最新の研究成果を解説して頂きました。同志社大学の八木雅之先生、高部稚子先生、石崎香先生、米井嘉一先生には、生体中の糖化現象を整理して頂き、アンチエイジングに関わる糖化ストレスの作用メカニズムとその予防法(抗糖化)を概説して頂きました。

執筆頂いた先生方からは最新の話題をご提供頂き、アンチエイジングを学術的に捉えた特集に仕上がりました。なお、次号以降になりますが、神戸大学名誉教授 市橋正光先生に「皮膚とアンチエイジング」についてご紹介頂く予定です。ご多忙の中、本特集のご執筆にご理解、ご協力頂きました先生方に深謝申し上げます。